

博物館だより

Vol.15 No. 1
2022年 12月20日 発行



横須賀市自然・人文博物館
神奈川県横須賀市深田台95
046-824-3688
<https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp>



もくじ	巻頭特集：特別展示「黒潮のめぐみ－海流が運んだ生き物と文化－」	1
	古文書の取扱いと「くずし字体験コーナー」の設置	2
	黒潮にのってたどり着いた植物たち	3
	開館20周年！	4
	冬の天神島	4
	こんなに大きくなりました！	4

巻頭特集 特別展示「黒潮のめぐみ－海流が運んだ生き物と文化－」

- 会期：令和5年1月22日（日）まで
9時～17時（休館日を除く）
- 場所：横須賀市自然・人文博物館 3階 特別展示室

黒潮は、地球規模の大きな海の流れ「海流（暖流）」のひとつで、世界でも最大規模かつ最速の海流ともいわれています。この海の流れは三浦半島に温暖な気候をもたらし、照葉樹の森や豊かな海岸植生をはぐくみ、黒潮の速い流れは、三浦半島の近海に南の海から多くの水産資源や、三浦半島の海洋生物相を特徴付けている「無効分散」する生物などを運ぶとともに、海流によって生じる海水の乱流は、栄養豊かな深海の海水を巻き上げ、良好な漁場の形成を助けています。

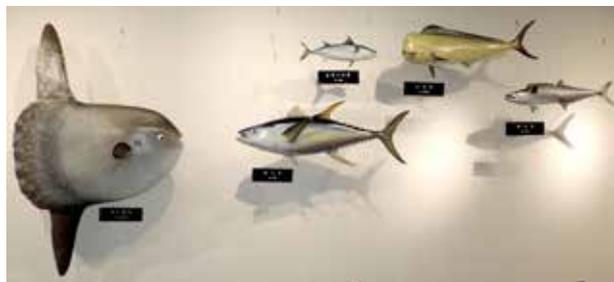
さらに、黒潮は人や文化の伝来にも貢献していて、紀伊半島に端を発する「あま（海士・海女）文化や、海運業、商業を三浦半島にもたらしました。

展示内容としては、黒潮の生い立ちや流路についての解説パネルとタペストリー、黒潮の生き物たちのふるさとしてサンゴの海の生き物、黒潮にのって横須賀の海にあらわれる生き物、黒潮に運ばれて横須賀に流れ着く

植物の種子や果実、本物そっくりのマンボウをはじめとした黒潮の魚の実物大模型（レプリカ）、水中映像をふんだんに使用したミニシアター「三浦半島の黒潮の生き物のふるさと」、黒潮にのって西日本から伝わったカツオ漁・イワシ漁、金比羅（金刀比羅宮）信仰などをわかりやすく紹介しています。

これらは、海に囲まれた三浦半島の自然や文化のルーツに興味をもっていただくきっかけとして企画されました。

（海洋生物学担当 萩原）



レプリカ水族館



展示会場
入り口アーチ



展示解説
（7月23日実施）

編集後記

巻頭特集で紹介した「黒潮のめぐみ－海流が運んだ生き物と文化－」は1月22日まで会期を延長することになりました。まだ会場にいらしていない方はこの機会にぜひご覧ください。（山本）



古文書の取扱いと「くずし字体験コーナー」の設置

私の担当する文献史学（歴史学）とは、くずし字で記された古文書（一般に和紙に墨書されたおおむね100年以上を経過した古い文書）の記述から歴史を明らかにする学問です。同じ博物館の中でも、担当する分野によって資料に対する認識や扱い、対応が異なります。本号では、古文書の取り扱い方の一端と最近人文館2階に設置した「くずし字体験コーナー」について紹介したいと思います。

博物館では、市内外の方から横須賀・三浦半島ゆかりの古文書の寄贈を受け、それらを専門的知見に基づいて整理しています。その後、こうした古文書を後世の横須賀市民へ確実に引き継ぐべく適切に保存・管理するとともに、展示を通して一般に公開しています。

古文書などの歴史的資料（以下、史料）は、過去を知り、未来を考えるための証拠物であるとともに、先人の生きた軌跡を記した遺品ともいえます。

こうした史料、とりわけ古文書の取り扱いにあたっては、①取り扱う前によく手を洗う（手の汚れや皮脂を除く）、②取り扱う場所で飲食はしない、③筆記用具には必ず鉛筆を用いる（インクを誤って付着させない）、④時計や指輪などは外す（史料を破損する恐れを除く）、⑤指をなめてページをめくらない、⑥書き込みはしない、⑦補修にセロハンテープや化学のりを使用しない（紙を傷める）、⑧直接コピー機にかけてコピーをしない（紙の劣化を促す）など、そのほか一般常識的なことも含めて様々な注意事項があります。こうした注意事項（「～をしてはいけない」、「～しなさい」）は、一見堅苦しく思われるかもしれませんが、古文書などの史料は一度失われたら元に戻すことができない世界に一つだけのものです。よって、史料を取り扱う際には必ず破損や劣化をさせる恐れのある行為・状態を排除し、緊張感をもって取り扱うことが大切だと考えています。

ちなみに史料の取り扱いということでは、現在でも日本刀を手に取り鑑賞する際には刀を代々伝えてきた先人や制作者に対する「敬意」や「感謝」をあらわすため、必ず鑑賞の前後に「一礼」をします。刀は単なる「使い捨ての道具」ではないのです。同様に、戦災や災害などを経て、長い歳月をかけて伝えられた古文書などの史料に対しても「敬意」をもって取り扱うことが必要ではないでしょうか。こうした「目に見えないこと・もの」について考えるきっかけを提供するのも社会教育施設である博物館の役割ではないかと思っ

ています。

このように、取り扱いにあたっては何やら小難しく感じる古文書ですが、くずし字が読めると案外面白いものです。それは記された内容に興味をもったという場合もあるでしょうし、読めなかった文字が読めるようになった喜びがクセになるという場合もあると思います。もちろん古文書には記された内容だけではなく、形状や書式などさまざまな情報が含まれています。しかし、まずは古文書に記された文字、すなわち「くずし字」に親しんでもらおうと当館人文館2階に「くずし字体験コーナー」（ワークシート）を設置しました。このワークシートでは、①博物館の展示物をくずし字の組み合わせの中から見つけ出す、②実際に横須賀市内の地名をくずし字で書いてみる、ということが体験できます。ワークシートの制作にあたっては、将来の学芸員を養成する立教大学学芸員課程の現役学生3名の協力を得ました。

そんな「くずし字体験コーナー」ですが、来館者の方からは「最初は難しかったけど、な（慣）れると暗号みたいで楽しかった」（家族連れで来館された11歳）、「とっても難しいですね…、でも書けたり解読できたらカッコいいと思いました！」（市内在住、20代女性）などの感想を頂いています。

まずはこのワークシートを通して楽しみながら学ぶことで、少しでも「くずし字」に関心を持って頂ければと思っています。そして、それぞれが学びを深めるなかで地域の歴史やその背景にある古文書などの史料への向き合い方について考えて頂ければと思います。

ご来館の折には、ぜひ「くずし字体験コーナー」に挑戦してみてください。

（文献史学担当 藤井）



「くずし字体験コーナー」（人文館2階常設展示室）



黒潮にのってたどり着いた植物たち

現在、博物館では特別展示「黒潮のめぐみ ―海流が運んだ生き物と文化―」が開催されています。展示の中では、黒潮に乗って横須賀・三浦半島にたどり着いた植物も紹介されています。

「横須賀市の花」であるハマオモト（ハマユウ）もそのひとつです。ハマオモトの種子は、表面がコルク質、内側が海綿状になっていて海水によく浮くつくりになっています。博物館附属天神島臨海自然教育園（以下、天神島）のハマオモトは、北限に自生することから神奈川県天然記念物に指定されています。



天神島に咲くハマオモト



ハマオモトの種子

天神島のハマボウも北限かつ神奈川県唯一の自生地として知られていました（近年、川崎市や三浦市でも自生が確認されました）。ハマボウも海水に浮きやすい性質の種子をつける海流分散植物です。



天神島のハマボウ



ハマボウの果実と種子

国内では四国、九州南部、琉球、小笠原諸島に分布するグンバイヒルガオも、天神島のほか三浦半島への漂着が確認されています。冬を越すことができないた



天神島（笠島）に漂着したグンバイヒルガオ

め定着はしませんが、夏の砂浜では、漂着した種子から発芽したと思われる株が見られます。



自生地のグンバイヒルガオ



三浦半島に漂着したグンバイヒルガオの標本

このほかにも、三浦半島の海岸では、ココヤシやモダマなど南方に生育する植物の種子や果実が見つかります。当博物館では確認していませんが、他の地域では漂着種子の発芽が観察された例もあるようです。



漂着した種子や果実（ココヤシ、モダマ、ゴパンノアシ、モモタマナ）
博物館本館「さわれる展示コーナー」に常設展示

海流分散植物は、長い海の旅の末に打ち上げられた新天地で発芽し、分布を広げてきました。三浦半島の海岸の植物を楽しむ際には、そのルーツにも思いを巡らせてみてはいかがでしょうか。

（植物学担当 山本）

【参考】

- 布施静香 2015 ヒガンバナ科『日本の野生植物 1』平凡社 pp.240-245
- 神奈川県植物誌調査会編 2018『神奈川県植物誌 2018』神奈川県植物誌調査会
- 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館編 2022『神奈川県レッドデータブック 2022 植物編』神奈川県

開館20周年！

ヴェルニー記念館



2022年5月1日にヴェルニー記念館は開館20周年を迎えました。ヴェルニー公園のバラ園もまた今年で20周年を迎えています。

終戦間もない1946年に開園した臨海公園は、2000年に現在の「ヴェルニー公園」の名前になりました。そのきっかけはヴェルニー記念館で展示されている2基のスチームハンマーです（どちらも国の重要文化財）。横須賀市の発展と日本の近代化の礎となったこれらのスチームハンマーは、かつてこの地にあった横須賀製鉄所のために輸入されたもので、その後の横須賀海軍工廠でも、終戦後に米海軍横須賀基地となってからも使用されていました。2基のスチームハンマーの保存活用を目的として、2002年にヴェルニー記念館が建設され、ヴェルニー公園にはヴェルニーの出身国・フランスに因みバラ園が整備されました（記念館開館までの経緯は横須賀市博物館報第50号をご参照ください）。

現在、ヴェルニー記念館では記念館とバラの花をイメージした缶バッジを販売中です。ご来館の際はぜひお手にとってみてください。（植物学担当 山本）



ヴェルニー記念館開館20周年記念缶バッジデザイン（ヴェルニー記念館でのみ販売）

冬の天神島

天神島臨海自然教育園



冬の天神島は、ウミウシや魚などが夏に比べて観察しにくい時期となります。そんな天神島の冬のおすすめは野鳥観察です。岩場で羽を乾かすウミウやカワウ、餌をとるウミアイサなど、様々な鳥たちを観察できます。また、天神島は神奈川県の名勝にも指定されており、空気の澄んだ冬はとてもきれいな景色を眺めることもできます。運が良いと蜃気楼（光が暖かい空気と冷たい空気を通るときに屈折することで、実際のものが逆さに写ったり島が浮いたりして見える現象）が見えることもありますので、カメラを持ってぜひ来園ください！

（天神島臨海自然教育園 小長谷）



ウミアイサ



教育園北口から見える蜃気楼（江の島方面）2枚



羽を乾かすウミウ

こんなに大きくなりました！



今年のゴールデンウィーク頃、来園者に捕まえた魚の名前を訊ねられました。しかし、当時は体長1cmにも満たない小さな魚だったため種類がわからず、大きくなるまで育ててみることにしました。半年ほど経ち、今では体長10cmを超えるまでに成長しました。この魚は「ハナオコゼ」という名前で、本来は外洋を漂流する「流れ藻」について生活し、流れ藻にかくれようと近づいた魚や小動物を丸のみにする肉食の魚です。現在、天神島ビジターセンターでは2匹のハナオコゼを展示しています。

（天神島臨海自然教育園 小長谷）



捕まえたばかりの頃のハナオコゼ（体長1cm以下）



現在のハナオコゼ（体長10cm以上）